

2021年度 授業シラバスの詳細内容

| ○基本情報 | | | |
|-------------|---|-------------------|-----------------|
| 科目名 | 地域計画特論B (Special Lecture of Regional Planning B) | | |
| ナンバリングコード | R20214 | 大分類 / 難易度 科目分野 | 環境情報学専攻 / 標準レベル |
| 単位数 | 2 | 配当学年 / 開講期 | 1年 / 後期 |
| 必修・選択区分 | 選択 ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。 | | |
| 授業コード | M006201 | クラス名 | - |
| 担当教員名 | 菅 雅幸 | | |
| 履修上の注意、履修条件 | 各回で行う課題の提出をしてもらいます。成果物に対する評価よりも課題に取り組む姿勢を評価しますので積極的に課題に取り組み、必ず提出してください。 | | |
| 教科書 | 随時、資料を配布します | | |
| 参考文献及び指定図書 | 随時配布します。 | | |
| 関連科目 | 地域計画特論A | | |

| ○基本情報 | |
|------------------|--|
| 授業の目的 | 地域構造の変化を理解するために、地域解析ソフト(GIS)を使って、可視化する手法、事例を学修する。 この講義を通じて、情報を可視化する意義、表現することの難しさを理解することを目的とします。 地域分析の手法としを 実 にて学修する。 |
| 授業の概要 | 大都市沿岸域における地域構造の変化、土地利用を基にした景観的特性、大在地区の土地利用の変化、ハザードマップの3D化、ArcMapによる地域分析、地域分析の提案 |
| 授業の運営方法 | (1) 授業の形式 「講義形式」 (2) 複数担当の場合の方式 「該当しない」 (3) アクティブ・ラーニング 「実習、フィールドワーク」 |
| 地域志向科目 | カテゴリー III: 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目 |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 菅 雅幸 本授業の設計に関する実務経験として設計事務所で設計業務に従事。 |

| ○成績評価の指標 | | ○成績評価基準(合計100点) | | |
|-------------------|----------------------|-------------------|-------------------|------------------|
| 到達目標の観点 | 到達目標 | テスト (期末試験・中間確) | 提出物 (レポート・作品等) | 無形成果 (発表・その他) |
| 【関心・意欲・態度】 | 課題作成に対する取り組む姿勢 | | 35点 | 15点 |
| 【知識・理解】 | 使用するGISソフトの習熟度を評価します | | 50点 | |
| 【技能・表現・コミュニケーション】 | | | | |
| 【思考・判断・創造】 | | | | |

| ○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法) |
|---|
| 課題作成に対する取り組みを評価します。成果物に対する評価よりも課題に取り組む姿勢を評価する。 |

| ○その他 |
|------|
| |

2021年度 授業シラバスの詳細内容

| ○授業計画 | 科目名 担当教員 | 地域計画特論B (Special Lecture of Regional Planning B) 菅 雅幸 | 授業コード | M006201 |
|---|-------------|--|-------|---------|
| 学修内容 | | | | |
| 1. ArcGISの説明1 地域分析に使用するGISソフトの利用方法を指導し、必要なスキルを身につける。 | | | | |
| 予習 | | | 約2時間 | |
| 復習 | | | 約2時間 | |
| 2. ArcGISの説明2 地域分析に使用するGISソフトの利用方法を指導し、必要なスキルを身につける。 | | | | |
| 予習 | | | 約2時間 | |
| 復習 | | | 約2時間 | |
| 3. 大都市沿岸域における地域構造の変化 近畿圏1 国土庁地理院の細密数値情報使用し、土地利用の分析を行う。 | | | | |
| 予習 | | | 約2時間 | |
| 復習 | | | 約2時間 | |
| 4. 大都市沿岸域における地域構造の変化 近畿圏2 国土庁地理院の細密数値情報使用し、土地利用の分析を行う。 ArcGIS for Desktop ワークブック 機能編 | | | | |
| 予習 | | | 約2時間 | |
| 復習 | | | 約2時間 | |
| 5. 大都市沿岸域における地域構造の変化 首都圏 国土庁地理院の細密数値情報使用し、土地利用の分析を行う。 ArcGIS for Desktop ワークブック 機能編 | | | | |
| 予習 | | | 約2時間 | |
| 復習 | | | 約2時間 | |
| 6. 大都市沿岸域における地域構造の変化 中部圏 国土庁地理院の細密数値情報使用し、土地利用の分析を行う。 | | | | |
| 予習 | | | 約2時間 | |
| 復習 | | | 約2時間 | |
| 7. 土地利用を基にした景観的特性 修士研究を基に由布市湯布院町でのケーススタディを使って、景観的特性の分析を行う。主にメッシュ分析を行う。 | | | | |
| 予習 | | | 約2時間 | |
| 復習 | | | 約2時間 | |
| 8. 土地利用を基にした景観的特性 別府市市街地でのケーススタディを使って、景観的特性の分析を行う。 | | | | |
| 予習 | | | 約2時間 | |
| 復習 | | | 約2時間 | |

| ○授業計画 | 科目名 担当教員 | 地域計画特論B (Special Lecture of Regional Planning B) 菅 雅幸 | 授業コード | M006201 |
|--|-------------|--|-------|---------|
| 学修内容 | | | | |
| 9. 大在地区の土地利用の変化1 修士研究を基に、土地利用の変化の分析を行う。 | | | | |
| 予習 | | | 約2時間 | |
| 復習 | | | 約2時間 | |
| 10. 大在地区の土地利用の変化2 修士研究を基に、土地利用の変化の分析を行う。 | | | | |
| 予習 | | | 約2時間 | |
| 復習 | | | 約2時間 | |
| 11. ハザードマップの3D化1 南海地震の津波被害を想定した沿岸漁村を対象に、被害予想をArcGIS、国土庁地理院の数値データと航空写真を使って、3D化したハザードマップを作成する。 | | | | |
| 予習 | | | 約2時間 | |
| 復習 | | | 約2時間 | |
| 12. ハザードマップの3D化2 南海地震の津波被害を想定した沿岸漁村を対象に、被害予想をArcGIS、国土庁地理院の数値データと航空写真を使って、3D化したハザードマップを作成する。 | | | | |
| 予習 | | | 約2時間 | |
| 復習 | | | 約2時間 | |
| 13. ArcMapによる地域分析1 GISマーケティングの事例を使って、マップ作成を行います。エクセルデータを作成して、アドレスマッチングサービスを利用して、ポイントデータを作成します。出店計画、需要予測などの立地分析を行います。 | | | | |
| 予習 | | | 約2時間 | |
| 復習 | | | 約2時間 | |
| 14. ArcMapによる地域分析2 GISマーケティングの事例を使って、マップ作成を行います。エクセルデータを作成して、アドレスマッチングサービスを利用して、ポイントデータを作成します。出店計画、需要予測などの立地分析を行います。 | | | | |
| 予習 | | | 約2時間 | |
| 復習 | | | 約2時間 | |
| 15. 地域分析の提案 GISを使った地域分析の活用について、各自の意見を提案する。 | | | | |
| 予習 | | | 約2時間 | |
| 復習 | | | 約2時間 | |
| 16. | | | | |
| 予習 | | | 約2時間 | |
| 復習 | | | 約2時間 | |